

戦後最悪のマイナス経済成長、そのどん底の最中にある日本経済。総崩れ、底割れの可能性も指摘される中、最悪の事態を食い止めるために、地域金融が果たすべき役割はかつてないほどに大きい。横浜商工会議所副会頭で、地銀トップ横浜銀行(横浜市西区)の大久保千行顧問に、現状と先行きを聞いた。

(聞き手・田崎 基)

トップに 今を乗り越える

「新型コロナウイルスの影響が経済を直撃し、国内総生産(GDP)が戦後最悪のマイナス成長となった。」

「この4〜6月期というのは、緊急事態宣言が出されたタイミングと一致している。」

足元の中小企業や小さな飲食店、小売り、観光・宿泊業など幅広い業種で売り上げ、利益ともに大幅減少し、赤字となった会社も少なくない。米
国経済も非常に厳しい状況に追い込まれている。コロナ前の経済状況に戻るには相当な時間がかかるだろう。」

横浜商工会議所副会頭

大久保 千行・横浜銀行顧問



おおくぼ・ちゆき 1975年横浜銀行入行。2005年代表取締役、11年副頭取を経て15年から現職。横浜市立大卒。67歳。

「私も含めて、宣言が出た時にはとてもコロナを恐れ、多くの人が出歩くのを避けた。人々の活動を一気に鈍化させ、消費を直撃した。この『経済の足元が縮小し』

「政府による支援も効いていない。」「多種多様な給付金、補助金、低金利融資の仕組みが運用されている。経済の底割れ

「消費」支え経済守る

「私も含めて、宣言が出た時にはとてもコロナを恐れ、多くの人が出歩くのを避けた。人々の活動を一気に鈍化させ、消費を直撃した。この『経済の足元が縮小し』

「政府による支援も効いていない。」「多種多様な給付金、補助金、低金利融資の仕組みが運用されている。経済の底割れ

「『底を打った』という見方もある。」「今後、感染者や重症者、死者がどう増減していくかによるところだが、今のところ4〜6月が『底』と言っているだろう。」

「世界経済も急激に落ち込み、停滞は長引くだろう。そうしたときに国内経済を下支えできるのはGDPに占める

「ただ、今後『コロナ前』と比較して、戻った、戻らないと評価するのはナンセンス

「地域金融に課せられた役割は大きい。」「世界経済も急激に落ち込み、停滞は長引くだろう。そうしたときに国内経済を下支えできるのはGDPに占める

「ただ、今後『コロナ前』と比較して、戻った、戻らないと評価するのはナンセンス

「地域金融に課せられた役割は大きい。」「世界経済も急激に落ち込み、停滞は長引くだろう。そうしたときに国内経済を下支えできるのはGDPに占める

「明るい兆しはあるか。」「先日も横浜市内の商店街の方々との意見交換をしてきた。売り上げが半分になるなど厳しい状況に置かれている。しかしその中で実にたくましい実践が行われている。商店街としてネットを通じた売買をスタートしたり、若手と年配が連携したりと力強い」

「大きな後退局面では、資金繰りが付かず倒産に追い込まれる企業が出てくる。そこを政策と共に金融が支える。とにかく経済を止めてはいけない。救済される企業が時間的猶予を得られるという効果はつまり、金融の側にとっても猶予されるという意味もある」

「いまま一度、地域金融の役割が問われている。」「地域ごとに担うべき役割は異なってくるだろう。コロナ禍で浮き彫りになったのは地域金融が『防疫』に対してどう向き合っただ。これまでの『防災』に加えて、地域金融の在り方や存在価値が改めて問われる。人口が一層減少していく中で、金融機関の規模や役割も変化していく。他の金融機関との連携は次の議論として避けられないだろう。コロナ禍はそうした現実をも突き付けている」

「世界経済も急激に落ち込み、停滞は長引くだろう。そうしたときに国内経済を下支えできるのはGDPに占める